

医療と福祉の充実は地方自治体の一番の仕事

子どもの医療費助成で他の自治体と比べ立ち遅れ

医療費無料化にかかる経費

小学校卒業まで拡大
1億4100万円

中学校卒業まで拡大
さらに5500万円

もちろん、医療費の無料化を拡大すれば、それなりの経費はかかります。しかし、市の財政規模を考え、財政調整基金や減債基金の取り崩しも考えれば、財源を生み出すことは十分できます。要は、市政がどの方向を向いているか、このことが問われているのではないのでしょうか。

各自治体の中で、子育て支援の充実度に大きな格差が生まれています。全国のほとんどの自治体が行っている子どもの医療費助成は、その充実度ははかる目安に使われています。

北海道の場合、道が基本となる制度を設計、市町村がそれに上乗せして実施しています。釧根地方で、独自の上乗せが全くないのが、中標津町と羅臼町。ついで制度が貧しいのが釧路市と釧路町です。多くの自治体で、高校卒業まで入院・通院ともに無料にしています。釧路市にも無料化を拡大してほしいの聲がたくさん寄せられています。

子どもの医療費無料化の対象年齢

	通院	入院
釧路市	小学校入学まで	小学校卒業まで、ただし課税世帯の小学生は1割負担
釧路町	小学校入学まで	小学校卒業まで、ただし課税世帯の小学生は1割負担
白糠町	高校卒業まで	高校卒業まで
鶴居村	高校卒業まで	高校卒業まで
標茶町	道の基準に準拠	
弟子屈町	道の基準に準拠	
厚岸町	高校卒業まで	高校卒業まで
浜中町	高校卒業まで	高校卒業まで
根室市	中学校卒業まで	高校卒業まで
別海町	中学校卒業まで	中学校卒業まで
中標津町	道の基準に準拠	
標津町	高校卒業まで	高校卒業まで
羅臼町	道の基準に準拠	

標茶町 弟子屈町

別な制度で医療費負担を還付 標茶町は大学生、弟子屈は町外高校生も

標茶町も弟子屈町も子どもの医療費助成制度は道基準のままです。しかし、かった医療費を、地元で使える商品券やポイントで還元する制度があります。

標茶町は町出身者であれば大学卒業まで、弟子屈は高卒までですが、弟子屈は高校に通う町外の高校生分も還付します。医療費負担をゼロにするだけでなく、地元商店の応援にもつながっています。



道の基準 通院 小学校入学までで、3歳未満および非課税世帯は無料、課税世帯の3歳からは1割負担

入院 小学校卒業までで、3歳未満および非課税世帯は無料、課税世帯の3歳からは1割負担